

組織名称	経済部
補職名・氏名	部長 長江 信行

令和4年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織目標兼管理職個人目標		達成度	
目標	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	
目標1 中小企業支援による地域経済の活性化及び陶磁器・タイル産業の振興、民間活力との連携 市況を踏まえた経済対策の実施、美濃焼産業の活性化事業支援	1. セミツバレー構想の推進 ①セミツバレー協議会の運営支援及びセミツバレー展、クラブキャンプ開催、国内外への情報発信、やきもの甲子園開催 ②ふるさと納税における美濃焼の4市（多治見・土岐・瑞浪・可児市）共通返礼品の実現 2. 印岐市プロジェクトの推進 ①中国印岐市を拠点とした美濃焼の販路拡大 ②印岐市特産品と美濃焼のコラボ商品の開発 ③中国国内での「美濃焼」の商標権解消に向けた取り組みの実施 ④. 「き」業展、企業お見合い等による中小企業支援及びふるさと納税の調査研究	1. ①11月セミツバレー展開催・3月クラブキャンプ開催決定、やきもの甲子園に54校240人271件の応募 ②土岐・瑞浪・可児市関連部課長に説明・協力要請 2. ①令和5年度の印岐遺跡博物館オープンに向け多陶商、陶芸協会等と展示品を調整準備 ②意匠研・高田陶磁器工業組合・印岐市古川酒庄とのコラボ商品（酒粕）を開発、商品化決定 ③プロジェクトメンバーが中国へ渡航、現地弁護士と協議 3. 7月美濃焼GO、7月新事業突破補助事業、9月TAJIMEALGO、12月やきものづくり補助事業等を実施 4. 10月企業お見合い開催382件の商談実施、1月「き」業展開催108社出展、総務課と連携したふるさと納税の研究を実施し7月チームシップと契約	T2
目標2 新たなテクノロジーパーク候補地の決定及び優良企業の誘致、進出企業へのアフターフォロー	1. 次期テクノロジーパーク開発に向けた調査を実施し、最終候補地を決定 2. 第1期高田テクノロジーパークへの進出企業の誘致及びデベロッパー誘致に対する取り組みの実施 3. 第1期高田テクノロジーパーク使用に関するJR東海との協議、土地開発公社等関係部署との管理協議、地元自治会との連絡調整を実施 4. テクノパーク進出企業への支援 ①第2期高田テクノロジーパーク進出企業の操業支援 ②長瀬テクノロジーパーク、上原テクノロジーパークにおける増設事業サポート 5. 進出企業へのアフターフォローによる地域交流の実施、地域貢献事業の促進	1. 次期テクノロジーパーク整備用地を決定（1月） 2. 商談企業への継続的な情報提供の実施、相談企業への現場見学実施（9月）、経産省のデベロッパー候補地78か所として公表 3. JR東海と継続的な管理協議実施、効率的な財産管理のため第1期テクノロジーパークを土地開発公社から市が買戻し管理（12月議会） 4. ①4月立地協定式実施、9月所有権移転 ②上原テクノロジーパーク工場増設工事をサポート、フロンティアパーク立地企業の新工場建設を支援し市内立地決定 5. トヨタ多治見サビリティセンターへの地元小学校社会科見学実施（10月）、PTA連合会と連携したアマンとの小学生体験学習実施（5月）	T2
目標3 イベントの実施、日帰り観光等の推進及び中心市街地活性化 国内外を対象とした観光誘客、広域観光連携及び関係団体と連携した中心市街地活性化支援	1. たじみDMOと連携した統合記念事業の実施 2. 「やくならマグカップも」を活用した観光PR及び誘客事業の実施 3. ANA等の民間企業と連携した高級旅行商品の開発 4. 新型コロナに対応した主要イベントの実施（陶器まつり、花火大会、美濃焼祭、多治見まつり等） 5. 東美濃歴史街道協議会の事務局運営（輪番制）及び広域観光連携事業の実施 6. 中心市街地活性化 ①たじみDMOに空き店舗対策基金を設置し空き店舗のリノベーション等に活用、基金の原資となる寄附を募集 ②ビジネスプランコンテスト実施による中心市街地への出店促進及び商工会議所や金融機関等と連携した起業創業支援	1. 8月四季と器、12月イベントポイント灯式開催、12月イベント推進プロジェクトチーム（TIP）立上げ 2. 11月やくも講演会開催、やくもギフトブック作成 3. イベント推進協議会に富裕層向けコンテンツ提供 4. 4月陶器まつり、8月シールド花火大会、10月美濃焼祭、11月多治見まつり開催 5. 5月総会開催、3月MEETS-HIGASHIMINO開催決定 6. ①基金の原資となる寄附の募集を実施、基金活用1号案件として本町リネストの空き店舗リノベーション事業を決定し国の補助事業と併せて支援 ②1月ビジネスプランコンテスト実施（21件応募）、6・10・2月起業支援センター入居審査実施、6・10月多治見で働くフェス開催（総面談数6月142件・10月69件）	T2
目標4 農業振興及び森林整備の推進 人・農地プラン等による持続的な農業振興の推進、地産地消の推進及び森林環境譲与税を活用した森林整備事業の実施	1. 人・農地プラン等による人と農地問題の解決 ①人・農地プランの実質化への取り組み（南姫地区、根本地区、小泉地区） ②新たな営農組織設立に向けた取り組みの実施 ③農業経営継続に向けた新たな担い手の発掘支援 2. 森林環境譲与税を活用した森林整備事業の実施及び林業就業移住支援 3. 農業祭の開催、農産物直売所への支援、フォレストの倉の事業展開支援による地産地消の推進 4. 有害鳥獣対策及び確実な捕獲体制の維持 5. 農業委員会の適切な運営及び遊休農地対策の実施、農地パトロールの効率化	1. ①5月大針地区の農業委員等と意見交換を実施 ②諏訪農林の規約案作成、機器導入・販路拡大支援 ③新規就農者の計画を認定、支援実施（2名） 2. 樹種判別調査を実施、森林整備意向調査実施計画策定、林業就業移住者2名に補助金交付 3. 11月農業祭開催、フォレストの倉による三郷地区でのさくら祭り（4月）・27区事業所交流会（9月）・イヨ祭（11月）開催支援、ジビエ活用研究に着手 4. 猟友会捕獲隊と連携し住民要望等に対応、有害鳥獣被害対策として狩猟免許取得補助制度・防護柵設置補助制度を創設 5. 農地利用状況調査実施（7・8月）、農地パトロール効率化に向け国の補助金を活用しタブレット端末導入	T3
目標5 陶磁器の次世代を担う人材の育成及び各種支援 研究生の確保、卒業生の定住支援及び幅広いデザイン支援、技術支援の実施	1. 3Dプリンター・スキャナー等を活用したデザイン支援 ①たじみDMOや市内陶磁器・タイル関連企業等との連携による新商品開発に向けた3Dモデリング研究会の開催、デザイン試作支援、3DCAD講習会による造形技術者支援 ②文化財保護センター等との3Dスキャナーを活用した3Dバーチャル技術活用研究の実施及び研究成果の公開 2. 移住定住を促進する研究生募集、人材育成 ①応募者増加へ向けた授業内容の充実 ②外国人研究生（セミツバレー）3名以上の確保 ③国内新入研究生20名以上の確保 ④国際陶芸学会等を活用した国際交流の推進 ⑤陶芸工房バンク、修了生雇用・定住促進奨励金、修了生創作活動支援補助金の周知・運用	1. ①市内陶磁器工業組合18企業が参加し3Dモデリング研究会を4回実施、3DCAD講習会を5回開催 ②文化財保護センターと研究会を5回開催、共同で3Dバーチャル技術を活用した展示会を開催（1月） 2. ①公開特別講義7回、特別実習17回開催 ②外国人5名応募（新規2名・延長3名） ③デザイン技術コース15名応募（一次審査） ④9月スイズで開催の国際陶芸学会に職員を派遣し、美濃焼及び国際陶磁器フェスティバルのPR、意匠研究所の紹介を実施、各国会員と意見交換 ⑤陶芸工房バンクに新規登録者7名、新規物件4件登録	T3
b 独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動等	（目標設定）		

令和4年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称	経済部 産業観光課
補職名・氏名	課長 久田伸子

組織目標兼管理職個人目標		達成度	
目標	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	
目標1 セラミックパ レー構想の推 進、美濃焼産 業の振興及び 民間活力との 連携 地場産業の振興・ ブランディングに 資する販路拡張支 援	1. セラミックパレー構想の推進 ①セラミックパレー展・CCC（セラミックパレー・クラフト・キャンプ）開催支援 ②美濃焼解剖本製作プロジェクト支援 ③ふるさと納税での美濃焼4市共通返礼品の実現 ④「全国やきもの甲子園」の開催 2. 美濃焼の振興 ①100周年記念事業支援 ②中国河北省での美濃焼の販路拡大及び中国国内での「美濃焼」商標権解消に向けた取組みの実施 ③セラミックパレー振興補助・タイル施工補助制度の積極的運用 ④販路拡大支援（テラウェアフェス等見本市出展支援） 3. TVアニメ「やくならマグカップも」を活用した事業の実施 4. やきもの産地連携協議会による共同事業実施 5. 美濃焼を使おう条例関連イベントの実施	1. ①②セラミックパレー推進協議会に出席。組織体制作り等協力。3/11・12 CCC開催支援。美濃焼解剖本の作成支援 ③返礼品の選定について相談 ④1/12応募締切、54校/240人/271件の応募。1次書類審査後、2次審査を行い、2/25表彰式を美濃焼ミュージアムで開催。表彰後は、同ミュージアムで企画展示 2. ①11/5 タイル百年祭（第2回セラミックパレー展）開催支援 ②商標権についてプロジェクトメンバーが中国訪問、現地弁護士と協議。令和5年度の伊築遺跡博物館ワゴン向け展示品を調整準備 ③セラミックパレー補助金交付要綱を見直し、2/24審査会開催。タイル施工補助 21件、予算上限まで確定 ④1/27～2/5開催、出展を支援（20社） 3. 10/8 痛車イベントに出展PR、11/27日本アニメーション井上氏による講演会開催、アニメ聖地88選認定 4. 10/8-10 美濃焼祭に出展、絵付け体験約50名参加 5. グルメスタンプラリー11/15～12/25実施、実績200件、Wチャンス抽選会実施	T3
目標2 経済対策、地 域経済の活 性化（新型コ ロナ関連経済 対策） 市況を踏まえた迅速かつ柔軟な経済 対策の実施、中小 企業等の支援による 地域経済の活性化	1. 新型コロナに対応した経済対策 ①中小企業支援・新事業突破支援補助事業の実施 ②伴走型融資への保証料補給補助の創設 ③美濃焼タイル振興補助金を活用した事業支援 ④TAJIMEALGO・美濃焼GO等 消費喚起事業の実施 2. 企業・創業支援、事業継続支援 ①き業展・企業お見合いの実施 ②SKILL SHIFT 企業の人財活用支援 ③起業支援センターの活用 ④創業支援セミナーの開催 3. 商工会議所連携事業・多治見で働くプロジェクトの推進 4. 女性、高齢者、障がい者の就労支援、定着支援など安心して働き続けられるためのセミナー開催 5. ふるさと納税の調査研究	1. ①突破支援補助申請14件、11/4審査会を開催。12月補正にて予算を追加計上し、最終9社に補助を確定 ②25件申請 ③随時実施 ④TAJIMEALGO 9/1～11/30実施。新たなスタンプラリー形式で実績6,194件。やきものづくり応援補助金（申請130件）・貨物自動車運送事業燃料費高騰支援補助金（申請27件）を創設 2. ①き業展1/27、28開催、108社出展、海外戦略等の企画展を実施。10月企業お見合い開催、382件の商談実施 ②7月からスタート。東濃信用金庫ビジネスサポート課と連携、申請13件 ③BIルームは満室に近い状況で運営 3. 6/4、10/8多治見で働くフェスを開催。参加企業6月26社10月20社、参加者6月45名10月24名、面談数6月142件10月69件 4. 12/16定着支援セミナー開催28名参加、2/6育児休暇復帰セミナー開催 5. 計3回の美濃焼GOの売上実績と、テラウェアの売上実績からマーケティングを行い情報を提供	T2
目標3 観光誘客事業 の推進 市内観光資源、ア ニメソニー等 を活用した観光誘 客事業の実施、広 域観光連携事業 の実施	1. たじみDMOとの連携・事業実施支援 ①四季と器 ②組織統合記念イベント事業等 2. 新型コロナに対応したイベント、観光事業の安全安心実施 3. 東美濃歴史街道協議会による広域観光連携事業推進 ①事務局の運営（輪番制）及び各事業の企画立案 ②名古屋市内でのMEETS HIGASHIMINOの開催 ③地酒・酒器振興事業 ④旅行商品造成・助成事業 4. 自治体間連携事業の実施（春日井市他） 5. ANA等の民間企業と連携した高級旅行商品の開発 6. 「うながっぱ」や「やくも」等を活用した観光PRの実施 7. SNSを活用した観光情報の発信	1. 12/4 虎溪用水広場と新たに駅南エリアにイルミネーション点灯。2月に光の切り絵展を同広場にて開催 2. 11/3 多治見まつり開催。イベント推進プロジェクト会議TIPを立ち上げ、12/23 キックオフ講演会及び第1回ミーティングを開催 3. ①②③5月総会開催。3/4,5 MEETS HIGASHIMINOを3年ぶりに開催。JR高島屋で連携企画により 2/23～27 「ひと手間のある暮らし展」開催。アライアム東美濃の酒ブランディングを支援 ④名鉄との連携により旅行商品を造成、2月から催行。助成事業は500名に助成 4. 10/8～10 美濃焼祭、11/26 グリーンフェスタに春日井市ボートフェスを出展。10/15-16 春日井まつりに多治見ブース出展。 5. 国内向けのコンテンツを提供。次年度海外向け商品としても検討。幸兵衛窯や民間事業者と協議 6. 随時実施 7. たじみDMOのA2Webと連携し、積極的に観光情報を発信	T2
目標4 中心市街地の 活性化 TMO、商工会議 所、金融機関及び 民間事業者等との 連携による中心市 街地の活性化	1. 空き店舗対策・出店促進 ①たじみDMOのまちづくり基金設立支援及び基金の原資となる寄附を募集 ②店舗併用住宅分離改装補助制度による物件確保 ③まちづくりファンドによる出店支援 2. ビジネスランチャートの実施（1月） ①事業のPR活動、募集及びセミナー開催 ②1次審査（9月）、ブラッシュアップ（～1月）、最終審査（1月） 3. 官民連携事業等によるにぎわいづくり ①たじみDMOの暑さ対策事業（環境省の委託事業）支援 ②商店街空中スリ事業（7月） 4. 虎溪用水広場、駅モル等駅周辺の賑わい創出 5. 中心市街地活性化基本計画事業の見直し	1. ①②③垂柳・TMOの株主に向けて、まちづくり基金への支援を依頼。経済産業省の補助金を活用し、基金の第1号案件として本町カバネストの古民家をリノベーション。とうしんのまちづくりファンドの活用も検討中。カバネストの出店促進事業として大きな効果を期待 2. ①②たじみビジネスランチャート応募件数21件。9月に1次審査を行い、ファイナルに向けてブラッシュアップを実施。1/28 最終審査会を有観客・LIVE配信で開催 3. ①たじみDMO暑さ対策事業について環境省に推薦 ②暑さ対策コンテスト（DMO）の開催支援 4. 10/8-10 美濃焼祭を開催。えききたビアガーデン、駅モルを開催。2/5 WON! WONDER FES を開催支援 5. 多治見DMOと連携、各部会で協議し新たな中心市街地活性化基本計画を策定	T2
目標5 適正な事務の 執行 各事業、手続き、 関係団体等、会計 処理等の事務の 適正執行	①旧勤労青少年ホームの係争に関する業務 ②市営駐車場関係事務 ③鉱業法、採石法、砂利採取法関係事務 ④中小企業への融資・利子補給等関係事務 ⑤産業観光振興計画の進捗管理 ⑥各種補助事業関係事務 ⑦国内外観光トレンドの調査、研究 ⑧所管指定管理施設関係事務 ⑨商工業関係団体関係事務 ⑩発明協会関係事務 ⑪部内調整事務・産業観光課予算・決算	①12/7第2審勝訴。12/28上告され継続中 ②③④随時実施 ⑤12/19 委員会開催。令和4年度進捗状況の報告及び次年度戦略について協議。新年度予算反映後、2～3月に第2回委員会を開催予定 ⑥⑦随時実施 ⑧燃料費高騰による増額を9月、12月補正予算に計上 ⑨随時実施 ⑩9/11 発明くふう展を開催 ⑪随時実施	T3
b 独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己 研鑽、職員提案活動、施策の紹介・ 普及活動等	（目標設定）	（成果）	

組織名称	経済部（農林担当）併農業委員会事務局
補職名・氏名	課長 前田 剛

令和4年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織目標兼管理職個人目標		達成度	
目標	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	
目標1 森林保全と有害鳥獣対策の推進 森林環境譲与税を活用した林業就業移住支援、森林整備の実施	1. 森林整備推進のため森林環境譲与税の活用 ①林地台帳整備（富士見町・月見町・美山町） ②意向調査実施計画の策定 ③市内樹種調査を実施 ④林業就業移住支援 ⑤森林環境譲与税の新たな活用策の研究 2. 官行造林解除と補償額の決定 ①官行造林の補償対象箇所及び補償額の決定 ②東濃農林事務所等連携した林政事務の適切な遂行 3. 有害鳥獣対策 ①豚熱（CSF）、鳥インフルエンザ対策にかかる県、猟友会との調整 ②猟友会捕獲隊との連携・捕獲体制の維持 ③地域・地元住民による捕獲体制の支援 ④県その他関連団体と連携した獣害対策の実施	1-①富士見町・月見町・美山町の林地台帳整備 ②樹種判別調査（8月）等を参考に森林経営管理に向けた意向調査実施計画策定 ④林業就業移住者2名（香川県・長野県出身）に補助金交付 ⑤笠原小中学校木質化での活用を調整。森林経営管理制度運用に向け譲与税活用の会計年度任用職員雇用を検討 2-①8月笠原町深山4.63haの官行造林を解除 ②森林法に係る伐採届12件、所有者変更届6件を処理 3-①イノシシ捕獲個体の血液検体により7月笠原町、8月市之倉町、11月滝呂町で豚熱感染を確認。年末鳥インフルエンザ動員計画を調整 ②③猟友会捕獲隊増員に向けた狩猟免許取得補助制度、農地での電気柵等設置補助制度を創設 ④熊などが住宅地に出没した場合の連携強化のため、市・県・警察・猟友会による連絡会議に参加（1月）	T3
目標2 農業振興の推進 人・農地プラン実質化及び農地の保全と利用促進	1. 人・農地プラン等による人と農地問題の解決 ①池田南地区（廿原・三の倉町・諏訪町）実質化の公表 ②人・農地プラン実質化への取組み（南姫地区、根本地区、小泉地区） ③新たな営農組織設立に向けた取り組みの実施 ④農業経営継続に向けた新たな中心経営体の発掘支援 2. 各種交付金制度等を活用した農地の保全と利用促進（農地中間管理機構の活用、多面的機能支払制度、中山間地域等直接支払交付金制度） 3. 農業再生協議会の適正な運営（経営所得安定対策事業、鳥獣被害防止総合対策事業等） 4. 農業経営基盤強化促進関係事務等の就農支援 5. J A と連携協力した市民農園の適正な管理運営 6. 市街化調整区域における空き家再生補助制度周知	1-①12/26地元関係者、県、JA、農業委員と協議し、2月にプランを公表し実質化移行 ②5月大針地区農業委員らと意見交換 ③「諏訪農林」の規約作成・機器導入支援、給食地産地消に向け食育推進課と調整し他地区の農産物も含め採用、東京見本市に同行、販路拡大支援 ④10/11青年等就農計画認定（25歳：水稲）。経営改善計画（38歳：野菜）の支援会議3回、1/30審査会開催し認定 2. 農地バンク活用、新規就農者等に農地集積。廿原・根本・大藪の多面的機能支払交付金、大藪・北小木の中山間地域等直接支払交付金事務実施 3. 令和5年度鳥獣被害防護柵設置申請を支援（廿原ええのお・諏訪農林・大藪第5農水環を守る会） 4. 5. 6. 認定新規就農者の経営開始資金、経営発展支援事業補助金交付。J A と市民農園（9か所）を運営管理。空き家再生補助実績なし	T2
目標3 地産地消の推進 地産地消のPRと推進のための農業祭等の実施	1. 池田南地区の活性化支援 ①（一社）フォーレ三の倉の継続的な事業展開への支援 ②地球村と連携した事業展開 2. 地産地消推進のため農産物直売所の運営支援 ①農産物直売所運営検討会議における売上向上策の提案と目標達成への支援（毎月） ②今後の直売所の運営の在り方についての協議を継続 ③集客力向上に向け9周年イベントの実施（6月） ④出張販売の実施等販売先の拡大 3. 農業祭の開催による農業、食育、地産地消のPR ①実行委員会での事業計画策定、実施 ②農業祭実施による駅北の賑わいの創出（11月）	1-①4/8さくら祭（約700人参加）、11/12第1回イチョウ祭（約300人参加）の開催支援。9/10に27区事業所交流会（30社）。春秋の愛岐トンネル群での天然酵母パン出張販売支援。ジビエ活用の研究着手、1/17長野県泰阜村営加工施設視察 ②庁内会議やフォーレ役員会等に参画し、方針等を協議 2-①②③毎月運営検討会議開催。6/4に9周年祭開催（来客254人、売上19万円、翌週記念セール売上106万円）。農業祭に連動し年末セール開催 ④アマゾン多治見F C出張販売を5回実施 3-①②11/26駅北虎渓用水広場にて農業祭（グリーンフェスタたじみ2022）を開催。新たに春日井市連携食用サボテン等を販売、約750人が参加するなど駅北の賑わい創出に貢献	T3
目標4 農業委員会制度の推進 農業委員会の円滑な業務の推進	①農業委員への研修会等の実施 ②毎月の総会等事務の円滑な運営 ③農地法の権利移転許可等の適正な運用（通年） ④農地利用状況調査（7～8月）、遊休農地の利用意向調査（11月）の実施 ⑤農地パトロールの効率化 ⑥農業委員による農業の担い手への農地の集積、集約の推進 ⑦農地の違反転用、非農地判断等の実施 ⑧農業委員改選事務の実施	①3月タブレット操作研修会を実施 ②農地利用最適化活動交付金制度変更に伴う記録簿記入促進を依頼 ③毎月末水曜日に農業委員会総会を開催、権利移転等の農地法関係議案を審議 ④農地利用状況調査（農地パトロール）をもとに、11月遊休農地利用意向調査を実施。年度末までに調査結果集計 ⑤タブレット端末導入に係る契約、来年度予算要求などを実施（2月末に導入） ⑥新規就農希望者への農地情報を提供 ⑦南姫地区農地の非農地判断等、具体的事例に関し担当地区委員で個別協議を実施 ⑧2/1～2/28農業委員候補者を募集（一般推薦、団体推薦、一般募集）任期は令和5年. 7/20～令和8年. 7/19	T3
目標5			
b 独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等	（目標設定）	（成果）	

組織名称	経済部 企業誘致課
補職名・氏名	課長 水野 直喜

令和4年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

目標	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	達成度
目標1 高田テクノパーク開発事業の推進と進出企業誘致 関係機関調整・進出優良企業誘致・分譲手続き	1. 事業用地の管理・維持 ①用地使用に関するJR東海との協議及び土地開発公社等関係部署との管理協議（随時） ②第1期事業用地の調整池地盤対策（7月） ③第2期事業用地進出企業の操業開始支援（3月末） ④テクノパーク事業用地の境界確定（6月末） ⑤北部連絡道路の供用開通（4月）及び移管手続き（8月） ⑥地元や関係企業への説明・良好な関係維持（通年） 2. 企業進出事業の推進（第1期） ①新たな進出企業の誘致 ②データセンターの誘致に対する取り組み	1. ①舗装時期等使用に関しJRと協議（随時）。管理移管を目的に道路河川課等と現場確認（境界等）を実施（10月終了）。効率的な財産管理のため第1期事業用地を公社から市が買戻し管理（12月議会） ②調整池地盤改良工事完了（8月） ③進出企業協定式開催（4/27）、9月所有権移転、円滑な工事進行を支援（2月工場完成・6月操業予定） ④進出企業も交えた境界確定の完了（第2期事業用地7月、第1期事業用地は10月） ⑤開通式実施（4/18）後、道路河川課に移管（10月） ⑥進出企業工事及びIRの使用に関し地元区長説明及び地元回覧、苦情対応等円滑な地元対応（随時） 2. ①窓口及び企業訪問により誘致活動実施（随時）。企業の現場見学ニーズへの対応（9月） ②企業へのヒアリング（9月）等情報収集を実施	T2
目標2 工場立地サポートと次期工業団地調査研究 増設等手続き支援による事業の推進 誘致候補地の調査・物件に係る諸問題調整・地元調整	1. 次期テクノパークの調査・研究 ①次期テクノパーク候補地の調査事業の実施（2月末） ②公共施設管理課と施設統合等の情報交換及び跡地利用の調査研究（通年） ③次期テクノパークの最終候補地の決定（3月末） 2. 誘致企業の増設等に関する支援 ①上原テクノパーク、長瀬テクノパーク等における増設計画への助言と事業の推進サポート（通年） ②民間企業の施設増設等に関する助言と指導（通年） ③工場立地法の届出に関する助言・事業所等設置奨励金に該当する企業の指定（3月末・通年）	1. ①調査候補地を決定（6月）の上、適正な調査を実施し成果を確認（2月） ②統廃合予定の用地情報を公共施設管理課と共有し、活用可能性を検討（随時） ③庁内協議において次期整備用地を決定（1月） 2. ①上原テクノパーク、長瀬テクノパーク及びフロンティアリサーチパークへの進出企業の拡張計画に対し、開発指導課等関係部署との協議を調整しサポート、円滑な工事、工場等新設に寄与（随時） ②市内へ進出又は市内で拡張予定の企業3件に対し工場建設に関する助言等を実施。拡張企業1社の市内立地決定、企業立地協定式開催（2月） ③工場立地法に関する助言4件、奨励金該当の企業1社を指定（1月）	T2
目標3 誘致企業の地域貢献事業支援と地域経済への波及促進 進出企業へのアフターフォローと地域、地元産業との連携強化	1. 各種奨励金による企業サポート ①事業所等設置奨励金の確実・迅速な交付（9社9件） ②雇用促進奨励金の周知と申請手続き支援（20人） ③移住定住促進奨励金による転入促進（3人） 2. 企業からの相談・要望等への支援と協働 ①土地の取得や各種行政的手続きの支援（随時） ②周辺緑地帯等の草刈や清掃等への協力（随時） 3. 地域貢献への協力 ①地元・学校・企業とのマッチング等による地域貢献事業支援と企画提案（トヨタ多治見サビセンターへの社会見学：アマゾン多治見フルフィルメントセンター青空マーケット・通年） ②地元自治組織等への情報提供・協議（通年）	1. ①事業所等設置奨励金の適正な支払い（5社5件完了、残り4社は3月交付） ②雇用促進奨励金の適正な支払い（4社11件） ③移住定住促進奨励金の適正な支払い（2社2件） 2. ①事業拡張相談に際し庁内関係所管課との調整実施（随時） ②関係者への調整・支援の上、トヨタ多治見サビセンターの清掃活動（年1回）、トヨタ紡織の草刈り作業（年2回）を実施 3. ①トヨタ多治見サビセンターへの小学校社会科見学・公園清掃、アマゾンの青空マーケット（年5回）・花火清掃・体験学習・環境フェア参加の実施支援 ②トヨタ紡織の清掃活動にあたり地元区長、水利組合等と協議（6月）	T3
目標4 誘致活動の体制整備と適正な事務の執行 企業進出意欲を増進させる体制づくりと積極的なPR活動、迅速な事業遂行とレスポンス	1. 誘致活動の体制整備 ①プロジェクト会議開催と企業ニーズへの迅速誠実な対応 ②企業誘致促進協議会参加及び活動での展示会等へ出展やメディアを使ったPR活動実施 2. 誘致PRの推進及び事務の適正な執行 ①パンフレット配布やホームページ等による営業活動推進 ②進出企業への市民雇用、従業員の市内定住を促進するため企業への積極的な優遇制度を周知 ③雇用情報、不動産情報等の収集・整理に努め、企業に対して魅力溢れる情報発信 ④5S+Sの適正実施による多治見市の良さを強調	1. ①プロジェクト会議の開催（3月） ②企業誘致促進協議会参加（2回）による情報収集と、メッセナゴヤ2022への出展による誘致活動（11月） 2. ①PRパンフレットを企業、議会等へ配布。併せてホームページの情報を増強 ②進出企業及び進出予定企業に対し奨励金事務等対応時に積極的に制度周知 ③職安から求人情報を収集。また市内不動産情報を収集し企業からの照会時に活用 ④5S+S、スピードと正確さ等多治見市の良さをPRパンフレットに記載し、面談時にアピール	T3
目標5			
b 独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動等	（目標設定）	（成果）	

組織名称	陶磁器意匠研究所
補職名・氏名	副所長 石塚晋一

令和4年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織目標兼管理職個人目標		達成度
目標	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）
<p>産業界の動向に迅速かつ高度に対応するためのデザイン支援の強化</p> <p>3Dプリンター、3Dスキャナー、3DCAD等を活用したデザイン支援の実施</p> <p>目標1</p>	<p>①たじみDMOや市内陶業界との連携による新商品開発に向けた3Dモデリング研究会の開催(年4回)及びデザイン試作支援</p> <p>②文化財保護センター等との3Dスキャナーを活用した3Dバーチャル技術活用研究の実施及び研究成果の公開</p> <p>③3DCAD講習会による造形技術者支援(年3回)</p> <p>④商品開発における女性・若手人財参画支援のための先進事業所等見学会の開催(年2回)</p> <p>⑤3Dモデリングや製造技術に係る先進事例の調査及び業界との情報共有</p>	<p>①市内4陶磁器工業組合18企業が研究会に参加。8社(飲食器:4社、タイル:4社)が新商品開発を実施。1月新春見本市、2月PRセンター(テスト販売)、3月建築建材展、タリーズ多治見店で成果発表展を実施。積極的に情報発信</p> <p>②文化財保護センターと研究会を実施し広報たじみ1月号で成果発表。1月文化財保護センターと共同で3Dバーチャル技術を活用した展覧会「多治見のやきもの」を開催</p> <p>③1月末時点で3DCAD講習会を5回開催(7名参加)</p> <p>④11、12月に見学会を2回実施。市内企業から延べ17人が参加し好評</p> <p>⑤12月に市内企業の3D関連機器相談会に参加。各種3Dプリンターの動向と情報を獲得。各3Dプリンターの無料出力依頼を利用し更なる情報収集を進め、業界に還元</p> <p>T2</p>
<p>陶磁器産業・文化の両面で世界とつながるための国際交流事業の拡大</p> <p>海外向け商品開発支援及び国際学会・海外美術館等と連携した情報発信の強化</p> <p>目標2</p>	<p>①信楽陶芸の森でのArtist in residence運営の実務研修及び研修成果発表会の開催</p> <p>②中国邛崃市向け美濃焼新商品のデザイン開発支援</p> <p>③中国邛崃市からの研究生受入体制の確立</p> <p>④国際陶芸学会総会での美濃焼及び意匠研究所のPRと団体会員加盟に向けた調査の実施</p> <p>⑤国内外の美術館等とつながる授業開催</p> <p>⑥短期・長期滞在在外国人受入に関する情報収集・発信</p>	<p>①⑤10/13～12/25に長期滞在研修を実施。生活・制作支援や施設利用者の選考に参加。信楽陶芸の森と連携し、研修の成果発表も兼ねて1/12に杉山道夫公開特別講義を実施</p> <p>②8月末までに6種の酒粕ホルダーをデザインし、その中の1点を試作して9月に邛崃市の古川酒庄へ提案。量産化決定</p> <p>③業界関係者による邛崃市視察が未実施のため、人数や研修内容が定まらず、受入体制は未確立</p> <p>④9月に第50回国際陶芸学会総会(ジュネーブ)で美濃焼や意匠研究所の紹介と、同学会への意匠研究所の団体会員加盟について意見交換を実施</p> <p>⑥出入国に係る在留資格申請等、入所希望の外国人に対して滞在国内や入所コース毎に入国時に必要な対策や書類、手続き方法を迅速に通知</p> <p>T2</p>
<p>優秀な人財獲得に向けた研究生の募集強化と陶芸家移住・定住促進事業の推進</p> <p>DX等を活用した研究生募集の効果的実施及び陶芸家移住定住促進策の拡大</p> <p>目標3</p>	<p>1. 研究生の安定確保に向けた募集活動の効果的実施</p> <p>①応募者増加へ向けた授業の充実</p> <p>②外国人研究生(セミックスホ)3名以上の確保</p> <p>③国内新入研究生応募者20名以上の確保</p> <p>④DX導入による研究生募集の効果的実施</p> <p>⑤文化財保護センターとの連携企画展「多治見のやきものvol.15市之倉」の開催</p> <p>2. 修了生等陶芸家移住定住策の推進</p> <p>①修了生雇用・定住促進奨励金の運用</p> <p>②修了生創作活動支援補助金の運用</p> <p>③「陶芸工房バンク」の新規物件掘り起こし</p>	<p>1-①1年生はデザイン実習・進級制作を実施、両課題作品を3月に所内展示。2年生は卒業展に向けishoken galleryと連動し講評会及び中期審査を実施。セミックスホは9月に前期制作展を実施。展示・講評等、各自の課題を見つけ更なる研究を進める環境を整備</p> <p>②新規2名延長3名の受入れを決定</p> <p>③一時考査デザイン技術コースに15名が応募</p> <p>④国内外問わず研究生募集のDX化に向けて来年度の募集時での導入準備</p> <p>⑤3Dバーチャル技術を活用し、多治見のやきものvol.15市之倉を1月27日より開催</p> <p>2-①奨励金4社4名交付済み。認定2社2名来年度交付予定</p> <p>②補助金5名交付済み</p> <p>③1月末時点で新規物件4件、新規登録者7名</p> <p>T3</p>
<p>安心・安全な製品づくりのための食器安全対策事業の実施</p> <p>美濃焼の信頼性や安全性の向上</p> <p>目標4</p>	<p>①ガラスコップ 熱衝撃試験依頼 (JIS規格) の新規受け入れ</p> <p>②焼成に関する副読本の作成</p> <p>③上絵加飾のアルカリと酸への耐性差の検証実験実施</p> <p>④鉛・カドミウム溶出試験3,000件、スプーリング試験1,800件への安定・迅速対応可能な体制構築</p> <p>⑤東濃四試験研究機関技術者担当者会議の開催(依頼・相談業務に係る情報共有)</p> <p>⑥安心・安全な製品づくりに寄与する欠陥原因、著作権・環境問題等の法令等に関する研究生への授業実施</p>	<p>①4月土岐市立陶磁器試験場で検査方法勉強会を開催。検査器具の導入と予備試験を実施し新規受け入れ情報をホームページで周知。試験依頼2件</p> <p>②10/13-12/25信楽陶芸の森の長期研究研修を実施。得られた知見を基に副読本を作成</p> <p>③4%、50%酢酸溶液による浸漬実験を実施。3月に所内で結果を展示発表</p> <p>④12月末時点で溶出試験を1,895件、スプーリング試験を992件実施。溶出試験の技術習得者を増やすため新たに職員2名が検査機器の操作方法を習得、体制を強化</p> <p>⑤吸湿量試験や海外規定の試験について各試験研究機関と情報交換を行い試験依頼者へ情報提供を実施</p> <p>⑥1月1年生向けに製品安全対策について授業、希望者に自身の作品の試験体験を案内</p> <p>T3</p>
<p>業界団体等との連携の強化</p> <p>業界及び関係機関との情報交換を強化</p> <p>目標5</p>	<p>①「デザイン室」や「食器安全対策室」等を活用した陶磁器関連情報の所内共有</p> <p>②東濃四試験研究機関協議会等、関係機関との連携・情報交換を実施し地域課題を所内共有</p> <p>③デザイン担当者会議、デザイン関連展示会等の視察を通じた最新情報の収集</p> <p>④地元陶磁器関連団体との良好な関係構築に向けた情報共有の推進</p>	<p>①3Dモデリング研究会の進捗状況や、3Dプリンター等の依頼状況及び技術等相談の状況を職員会議で随時報告し、職員間の情報共有を推進</p> <p>②コロナ禍による業界支援の状況や、法令に関する問い合わせ、受け入れ可能な試験項目等について、各試験研究機関と随時情報共有を実施</p> <p>③1/26、デザイン担当者会議にオンラインで参加。最新の全国陶産地動向の情報収集を実施</p> <p>④11月、岐阜県石膏型組合多治見支部・滝呂支部有志に、3Dバーチャル技術活用説明会を実施。文化財保護センターの取組等を情報共有</p> <p>T3</p>
<p>b 独自目標加算 (任意設定)</p> <p>例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等</p>	<p>(目標設定)</p>	<p>(成果)</p>